

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296100028		
法人名	社会福祉法人天佑会		
事業所名	グループホーム天羽苑		
所在地	千葉県富津市不入斗224-1		
自己評価作成日	平成31年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング
所在地	千葉県木更津市東中央1-1-13マコーラ第一ビル6階604
訪問調査日	平成 31年 2月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、毎日のんびりと暮らしています。晴天時には富士山が見え利用者、職員にとっては心を癒してくれる場所となっております。「自分の力で自分らしく生きよう」という目標に向けて安全に安心して過ごせる様、健康管理に気を配りながら支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境に恵まれ、富士山や四季折々の草花を見る事が出来るワンユニットの施設である。暖かくなると散歩やお花見に出かける。室内は広く天井が高いので圧迫感がない。小学生の訪問で楽しい一時を過ごしている。利用者は室内で出来る運動やゲームを楽しみ、健康管理を行っている。居宅療養管理指導の契約で、医師・薬剤師と連携し、職員の教育や利用者の医療に心掛けている。運営推進会議では、市役所、警察、地域を招き、現状報告やこれからの取り組み、防災対策では、消防や地域と連携体制を整えて行きたいと考えている。管理者は職員と共に尊厳を持って利用者と接し、季節感のある食事と、やさしい言葉、精一杯のケアに努めて行きたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議時に全員で唱和をしており、常に意識を持って業務に取り組んでいる。	管理者、職員は常に理念を共有し、話し合いを行っている。利用者が地域で自分らしく生きられるよう、地域での関係性を大切に考え、支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会や地区の懇談会等に出席し、奉仕作業や祭礼にも参加している。近隣の小学校や幼稚園とも交流を深めている。	地域の活動や役割を積極的に行い、必要とされている。祭礼に参加、小学校の生徒さんや園児との関わり、地域に出掛けグランドゴルフを行う。野菜を頂く、管理者は地域の人々に認知症の理解を頂く為に、実践経験を活かし、説明を行っている。利用者が地域の一員として受け入れられるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の懇談会や、運営会議等で認知症の方の支援方法や説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議では、毎回利用者様の状況や行事報告を行っている。市の職員や地区役員等からの意見や要望を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。	2ヵ月1回の会議が行われている。市役所、警察署、地域などの参加で行われ、現状報告や参加者からのお話、薬剤師からの薬の使用方法などの説明があり、良い勉強になっている。意見交換で出された意見は、運営やケアに取り入れている。会議の内容やメンバーを増やしたいと考えている。	会議の出席者に地域の民生員や地域包括支援センターの職員等の参加をお願いして、更なる推進会議の活性化を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者が2名入居されており、担当職員と生活状況の報告を情報交換している。運営会議にも市の職員の方が参加され、意見や助言を頂いている。	市の担当者が会議に出席して頂き、情報交換や問題解決に向け協力関係を結んでいる。生活保護の利用者がおり、社会福祉課の担当者が見える。利用者の暮らしぶりを伝え共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に参加をしている。職員会議時に、身体拘束に関する勉強会や、検討会を行っている。	内部研修を行い言葉の拘束について話し合いを行い、職員は理解を深めている。玄関の鍵はかけている。前は道路で危ない。部屋の中は広く自由に動ける。声掛け見守りを行い自由で安全なケアを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に参加をしている。職員会議時に、虐待防止に関する勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に取り入れて、研修に参加した職員が講師となり、学ぶ機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、口頭で説明をし、書面でも承諾を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑した時には、日頃の様子を報告しご家族との話す機会を設けている。運営会議にもご家族代表で、参加して頂き、意見や要望を聞いている。	家族は訪問された時や会議の参加など意見や要望を話してくれる。外部評価での家族アンケート調査では、感謝の言葉が述べられている。管理者は話し易い関係作りを力を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の業務の中で、意見を聞いている。問題点や改善策を会議で話し合う。	管理者は職員と大事な決定事項は会議や話し合いを常に行い、安心なケアに努めている。薬のチェックや利用者の介護拒否など連携し、支援に取り組んでいる。管理者は職員の業務中の悩みや個人的な事などを話せる労働環境に努めている。	施設長は以前は訪問介護をやっておられた経験もあり、利用者のケアや職員に対する気配りも良く、今後も過去の経験をフルに活用され、素晴らしい施設に成長される事に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境の整備に関しては、毎日巡回し、確認し、夜勤の巡回時の様子で把握している。職員には、面談時や日常の会話の中で意見や要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修や個々に参加したい研修を聞き参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や勉強会、講演会等に参加し、他の施設職員と交流の場を多く持つよう指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学や体験入居をして頂き、本人との面談を行う中で不安な事や要望をお聞きし、コミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や体験入居後に必ずご家族に状況を報告している。面会時にも近況報告をして要望や意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の身体状況や精神状態を把握し、ご家族の意向を聞き取りより良い支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除機掛け、食器拭き、ゴミだし等を分担して手伝って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員とで一緒に利用者様を支えるように連絡を密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には面会や外出、外泊などの機会を作って頂けるようお願いしている。	家族が訪問してくれる。利用者が自宅に帰る事も有る。かかり付け医の病院に受診に出掛ける。地域に買い物に行き、利用者が好みの物を買える様配慮している。生活の幅が狭くならない様に支援している。人間関係や地域社会と継続的な関係が保てるように積極的な支援に心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テレビ前に寛げる様にソファを置いてある事も有り利用者様が会話し楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近くの施設に入所となる時は面会に行くように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者会議を行い、ご本人の意向や希望、要望をお聞きし確認している。	担当者会議を行い、本人の意向を聞いている。利用者とは1対1で話す事もある。利用者は「家に帰りたい」自分の気持ちを伝える。家族は説得をする。本人の気持ちを大切に、思いや希望を叶えてあげたいと考えている。本人の生活歴を大切に、生き生きと自分らしく暮らせるよう把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や日常会話の中から今までの生活内容を把握し混乱の内容に支援し継続している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体面、精神面の状況を日々観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議にてその都度、職員から様子や意見を聞き確認し、問題点は、解決できる様話し合う。	ケース会議を行い、新たな要望や状況の変化などを話し合っている。精神の問題が多く、モニタリングを繰り返し行い、変化を共有し柔軟且つ臨機応変な介護計画を作る様に心掛けている。	ケース会議でその都度利用者の様子を聞き、特に精神面の問題に取り組み、変化を共有されているので、これからも継続して御願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個別のケース記録に、日中や夜間の様子を記録している。申し送り後も再度変わった事や気づいた事を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	モニタリングを通して変化や状況に合わせてご本人の希望に合う様支援している。」		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導の契約を結ぶ事で主治医及び薬剤師との相談や健康管理がスムーズにできている。	月2回の往診、利用者の体調管理に変化があれば、看護師に連絡を取り、対応している。居宅療養管理指導の契約を行っており、医師への相談や薬剤師との薬の相談など、利用者一人ひとりの健康管理や医療支援は安心である。個人的なかかりつけ医への受診は家族にお願いしている。入院中の様子を見に行き、ソーシャルワーカーと連携を取り、支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の身体、精神的状況を把握し変化があれば早急に対応し看護師への相談にてご家族様に連絡するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は様子を見に行き、ソーシャルワーカーとも話し合い今後の生活を決めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明はしている。急激な変化や医療的問題が見られる時は、話し合いの場を設け、今後の方向性を考え共有して取り組んでいる。	入居時に終末期に向けての話し合いを行っている。現在は重度化の利用者はいないが、状態が変化した場合、家族医療機関と連携を図り、対応して行きたいと考えている。緊急時の研修を受け、急変に備えている。目に付く場所にマニュアルを貼り、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して、職員の目につく場所に掲示している。又緊急時の研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、自信、災害対策マニュアルが作成してある。又、自主訓練も行っている。	年3回の避難訓練を行っている。消防の指導、警察、地域住民などと連携を図り、夜・昼を想定した実践的な訓練を行っている。夜は職員が少ない。地域住民の協力体制を強化する事が大切である。設備の点検や、水・食料など定期的なチェックをするよう心掛け備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けに気を配っている。勉強会などで利用者にわかりやすい声掛け、又は受容的な姿勢で接している。	管理者は利用者に対し、尊敬の心を持って接する事が必要と考えている。職員は共有し、目立たずさり気ない声掛けや、尊厳を無視した対応にならない様、管理を徹底している。利用者に対してのマナーを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事のメニューの希望をお聞きし取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的なサービスが提供出来るように、ご本人主体のペースを大切にし自由に過ごせる様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活習慣は変化しない様ご本人の希望に沿えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の形態に合わせて提供している。テーブル、食器拭き、配膳や下膳も個々に行っている。	食事は季節の材料を取入れ、彩り良く提供され季節を感じる。利用者は配膳や下膳、自分の力を発揮し、食事への関心を高めている。地域に出掛け食事を。好みのお弁当を注文する。週に1日パン食の日がある。食を通して様々な取り組みを行っている。栄養のバランス、水分補給などの取り組みメニューを工夫し、楽しい食事に心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつ時に希望のある方は好きなコーヒーや紅茶などお出ししている。起床時には、個々に配達される牛乳やヨーグルトを摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時の朝、夕と行い見守り確認を行っている。又義歯を使用している方は夜間洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを作成して確認し声掛けやトイレ誘導を行い、自立または現状維持できる様に支援している。	自分の力で排泄ができるよう支援に心掛けている。現在はトイレで排泄する利用者が多い。夜は用心の為にパッドを使用している。排泄を薬に頼らない為にも、運動を行い、水分補給、牛乳、ヨーグルトを提供している。個々に合わせた予防で、健康管理。リビングは広く歩く事も出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックも個々に行い、排便の状態を把握し、主治医や薬剤師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な限りご本人の希望を可能な限りお聞きし、順番も希望を聞きながら行っている。	日時は決まっているが、個々の希望に合わせている。利用者の自己決定にまかせ、週に2～3回は入浴する。午前中に入り、午後は好きな活動を行う。シャワーを使用する時もある。利用者の清潔保持や体調の改善に繋がる。言葉掛けや誘導で安心した入浴を心掛け、支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースや生活パターンにあわせて休息出来るような環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に個人ファイルを作成して薬手帳を管理している。又薬剤師からもアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に居室の清掃や共有スペースの掃除を手伝って頂いている。月1回のドライブを楽しみにされ、買い物も希望でされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員不足の為、個別対応の外出支援が出来ていない状況だが、御家族やボランティアの方の協力をお願いしている。	暖かくなると、散歩やお花見行事に出掛ける。家族やボランティアの協力を得る。個人的な買い物に出かける。外に出る事で、ストレス発散、短時間でも個人の体調に合わせて行っている。外出はその人らしく暮らし続ける為の支援に繋がる。	職員不足の中で、ご家族やボランティアの方の協力を得て頑張っておられるので、継続して御願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお小遣いの中から、おやつ時に販売機にて好きな飲料や移動販売のパンを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族に連絡したい時は、事務所にきて電話をかける支援をしている。ハガキや手紙が届いた時は、ご本人にお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出時、ボランティア来苑時等の際に撮った写真をホール内に掲示している。クリスマスやお正月等の飾りつけを行って、季節感を取り入れている。	リビングは広く、壁にはボランティアの訪問、行事の写真などを飾っている。季節に合わせて模様替えをする。利用者は、自分の居場所を決め、好きな事をする。テレビ鑑賞や作品作りなど行う。食事はテーブルで輪になり食べる。ガラス戸から日差しが入り、景色も見える。季節がわかる。利用者は一年を通して季節を感じながら過ごし、生活感もある。居心地の良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで過ごす事が多い為、テレビを囲んで利用者同士がのんびりと過ごし、会話ははずむ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していた物やご家族が持ってきた物を自由に置いたり、使用している。	居室は家で使用していた物を持ち込み、過ごしている。テレビ、タンス、ベッド、置き物など置かれている。居室内は整理され清潔感がある。窓から外の景色が見える。圧迫感がなく過ごせる。その人に合わせた物を使用し、毎日過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事。出来ない事を見極め個々の能力に合わせて意欲、目標に繋げる様に心がけている。		